

障害学会 第18回大会 総会資料

・日時：2021年9月20日（月）～25日（土）

・形態：書面開催（総会の審議は、大会HP上に資料を公開し必要に応じてメールにて質疑応答を行う。議決については、オンライン開催に鑑み、審議期間の終了をもって会則12条が規定する総会の承認を得たこととみなす。）

・質問の送付先

障害学会事務局：g047jsds-support@ml.gakkai.ne.jp

■ 1 審議事項

■ 第1号議案 2020年度事業報告および会計報告

①2020年度事業報告

理事会・・・2020年4月30日 第34回臨時理事会（Zoom）

2020年9月10日 第35回理事会（Zoom）

2020年9月27日 第36回臨時理事会（Zoom）

2021年3月19日 第37回理事会（Zoom）

理事会声明...2020年4月6日 新型コロナウイルス感染症と障害者に関する理事会声明

2020年11月8日 日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会共同声明に賛同

学会大会および総会・・・障害学会第17回大会 2020年9月19日 オンライン開催

学会誌・・・編集委員会『障害学研究』第16号の発行、第17号の編集・制作

共催・・・障害学国際セミナー ①2020年7月18日、②2021年2月27日に開催

②会計監査の推挙

9期理事会は、障害学会の会計監査として、打保由佳会員および圓山里子会員を推挙する。

*これは、会則19条「6. 会計監査は、総会において理事以外の会員の中から選出される。信任投票の場合、総会出席会員の過半数の信任をもってこれを承認する」に則って、2019年9月の総会において会計監査が選出されるべきところ、選出されていなかったためである。

③2020年度会計報告

2020 年度収支計算書

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

科目		予算	決算	合計
I 収入の部				
	会費収入	3,024,000	3,553,000	
	利息収入	0	0	
	第 17 回オンライン大会 収入		330,000	
	当期収入合計			3,883,000
II 支出の部				
	事務局経費	700,000	900,900	
	理事会費用	50,000	0	
	第 17 回オンライン大会情報保障費	500,000	130,680	
	第 17 回オンライン大会開催費 支出	200,000	177,688 (うち未払金 145,020 *1)	
	編集委員会費	50,000	0	
	研究企画委員会費	150,000	0	
	その他 クレジット決済による会費入金 時手数料等		28,946	
	学会誌発行制作費			
	第 16 号 : 印刷・発送費	1,150,000	1,137,840	
	第 16 号 : 制作費	150,000	151,320	
	第 17 号 : 印刷・発送費	1,150,000	0*2	
	第 17 号 : 制作費	150,000	0	
	過年度年会費支払会員向け学会誌送付代	60,000	2,412	
	当期支出合計			2,529,786
	当期収支差額			1,353,214
	前期繰越収支差額			3,501,214
	次期繰越収支差額			<u>4,854,428</u>

*1.大会開催費のうち Zoom 利用料とスタッフ人件費は未払いのため未払金として処理する。

*2. 17 号の発行が年度内に完了しておらず、当初予算 (1,300,000 円) の支出がなかった。

以上の会計報告に誤りのないことを確認しました。

2021年9月8日 会計監査 打保由佳・圓山里子

④ 障害学会第17回大会（立命館・オンライン大会） 会計報告
2020年度障害学会第17回大会決算 大会長・立岩真也

【収入】

大会参加費 330,000円
クレジット払い 3,000円×78人=234,000円
口座振り込み 3,000円×32人=96,000円
合計 330,000円

【支出】

受付システム利用料 25,000円
カード決済手数料 7,668円
Zoom ウェビナー利用料 23,020円*
生存学研究所スタッフ人件費 122,000円*
46報告×3000円 92,000円
シンポジウム準備・運営 1500円/時×2人×10時間=30,000円
合計 177,688円

*Zoom利用料とスタッフ人件費は未払いのため、未払金として処理する。

なお、大会情報保障費は学会から支出している。

文字通訳（ゆに） 70,840円
手話通訳（ミライロ）59,840円
合計 130,680円

以上の第17回大会会計報告については、打保由佳会員、圓山里子会員より監査を受けた。

■ 【第2号議案】2021年度事業計画案および予算案

①事業計画案

理事会・・・2021年9月2日 第38回理事会（Zoom）（実施済み）
2021年10～11月（予定）第39回理事会（Zoom）新旧合同理事会
2022年3月（予定）第40回理事会（10期理事）
理事選挙・・・2021年6月26日～7月12日 10期理事選出選挙（実施済み）

学会大会・・・第18回大会 2021年9月25日 オンライン開催 大会長・山下理事
編集委員会・・・『障害学研究』第17号の発行、第18号の編集・制作

②2021年度予算案

【収入】

繰越金	4,854,428 円	
学会費	3,024,000 円	納付率 80% (一般 500 名×7000、割引 70 名×4000)
第 18 回オンライン大会 収入	200,000 円	
収入計	8,078,428 円	

【支出】

事務局	1,000,000 円
理事会	50,000 円
研究企画委員会	150,000 円
編集委員会	50,000 円
第 18 回オンライン大会情報保障費	300,000 円
第 18 回オンライン大会開催費支出	200,000 円
学会誌制作発行費 (17 号)	1,300,000 円
学会誌制作発行費 (18 号)	1,300,000 円
過年度年会費支払会員向け学会誌送付代	60,000 円
予備費 (繰越予定金)	3,668,428 円
支出計	8,078,428 円

【学会誌制作発行費 内訳】

第 17 号制作費	150,000 円
第 17 号発行費	1,150,000 円

■ 【第 3 号議案】選挙結果および 10 期理事会

①10 期理事選挙報告

障害学会第 10 期理事選挙を下記の通り、報告する。

障害学会選挙管理委員会 田島明子・與那嶺司・頼尊恒信

実施期間：2021 年 6 月 26 日 (土)～7 月 12 日 (月)

投票結果

選挙人：417

投票者：95

総投票数：760

有効投票数：648

白票数：112

順位	氏名	得票数
1	立岩 真也	41
2	山下 幸子	23
3	石川 准	22
4	岡部 耕典	19
5	田中(長岡) 恵美子	18
6	天田 城介	16
6	市野川 容孝	16
8	川島 聡	15
次点1	熊谷 晋一郎	15
次点2	長瀬 修	15
次点3	土屋 葉	15

*同数（15票）が4名あったため、抽選を実施した結果、上記1名が当選となった。

市野川容孝会員が就任を辞退されたため、次点の熊谷晋一郎会員に就任を依頼したところ、受諾された。

②10期 補充理事の推薦

理事選出規程第1条により、「選挙によって選出された理事の合議」によって理事を補充することができる。選出理事の合議により、以下の会員が補充理事に推薦された。就任を依頼したところ、受諾された。

高森明

長瀬修

廣野俊輔

深田耕一郎

堀田義太郎

矢吹康夫

③10期理事会について

選挙結果と補充の推薦を受け、10期理事会の構成は以下の通りとなる。障害学会10期理事は審議期間の終了をもって会則12条が規定する総会の承認を得たこととみなす。

【理事】

天田城介

石川准
岡部耕典
川島聡
熊谷晋一郎
高森明
立岩真也
田中(長岡) 恵美子
長瀬修
廣野俊輔
深田耕一郎
堀田義太郎
矢吹康夫
山下幸子

【会長】 石川准

【事務局長】 深田耕一郎

障害学会 10 期理事会は会計監査として、鈴木良会員および木口恵美子会員を推挙する。

【会計監査】 鈴木良、木口恵美子

■ 2 報告事項

■ 2021 年度第 18 回大会について

第 18 回 2021 年度大会は、前年度同様、新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンライン開催となる。第 9 期理事の山下幸子（淑徳大）が大会長を務めている。

これまでの対面での学会方式における自由報告とポスター報告は、自由報告として一本化した。前年度同様、大会サイトに掲載された報告者の原稿に対し、質問を受け付け、その質疑応答内容を大会サイトに掲載するかたちをとっている。自由報告エントリー数は 33 である。

総会も前年度に引き続き、書面開催となる。9 月 20 日に総会資料を大会サイトに掲載し、同日から 25 日 17 時 00 分までを会員からの質問受付期間とする。受付期間の終了をもって総会での承認に代える。

9 月 25 日（土）13 時 00 分～16 時 00 分に、研究企画委員会による障害学会大会シンポジウムを Zoom ウェビナーで開催する。シンポジウムのテーマは「パンデミックにおける障害者の生」であり、企画趣旨や次第等は大会サイトに掲載している。文字通訳・手話通訳の準備がある。

大会参加費は、自由報告者（共同報告の場合は筆頭者、シンポジウム参加を含む）3,000円、シンポジウムのみ参加者1,500円である。

■ 研究企画委員会から

2020年度の活動として、研究企画委員会では第18回大会シンポジウムの企画立案を行った。「パンデミックにおける障害者の生」というテーマで登壇者を選定するべく、研究企画委員会メンバーで複数回のミーティングを行った。なお、第18回大会シンポジウム当日は、研究企画委員会メンバーである原田玄機氏が第1部司会を、同じくメンバーの長谷川唯氏が第2部司会を担う。

■ 編集委員会から 『障害学研究』について

- ・第16号『障害学研究』の発行について（2020年12月刊行）
- ・第17号『障害学研究』の発行について（2021年11月刊行を目標）
- ・第18号『障害学研究』の編集準備について（2021年10月15日投稿締切）

■ 各担当からの報告

① 渉外担当報告

（1）学会共催イベント報告：『障害学国際セミナー2020』

2020年7月18日に開催された障害学国際セミナー2020に学会は共催団体として加わった。

「セミナー概要」

○日時

2020年7月18日（土） 14:00-16:30（東京，ソウル） / 13:00-15:30（北京，台北）

○プラットフォーム

SKYPE Meet Now

○使用言語

英語

○主催・共催

立命館大学生存学研究所

共催：障害学会、韓国障害学フォーラム、東湖社会発展研究所、台湾障害学会、科研費基盤（C）東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会

○概要

障害学国際セミナー2020は、東アジアの韓国、中国、台湾、日本における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が障害者にどのような影響を及ぼしているのかという観点から以下のような議論を行った。

東アジアはコロナを感染者数、死者数共に国際的に見ると低水準で抑え込むことにこれ

までは比較的的成功している。それでも、障害者の人権確保という観点から見ると、多くの共通の課題が本セミナーでは浮かび上がった。多くはコロナ禍以前から存在していた課題が、コロナという新たな現象と結びついた時に深刻化している。それは情報面・物理面（医療機関を含む）のバリアや施設・病院への収容、地域生活資源の不足、政策決定過程への参画の壁、障害者の生命の価値を低くみる考え方などである。そしてコロナが特に厄介なのは、視覚障害者や盲ろう者のように触覚を利用することが多い人や、介助を必要とする身体障害者のように、距離の確保が難しい人に特別の困難をもたらすためである。しかし、その困難の一部は、安全確保を大前提としてですが、障害者への必要な例外的対応を意味する「合理的配慮」の提供で解決できる可能性があることも明らかになった。

なお、オンラインでの開催のため、本体のセミナーはこれまでの日本語、韓国語、中国語ではなく、英語のみで開催されたが、並行して Zoom での日本語同時通訳、そしてそれをもとにした手話、文字通訳つきの傍聴が実現した。

会議サイト <http://www.arsvi.com/a/20200718.htm>

関連サイト 立命館大学 NEWS & TOPICS

<http://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=1793>

Ritsumeikan University, NEWS & TOPICS

<http://en.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=510>

(2) 学会共催イベント報告：『障害学国際セミナー：オンライン特別セミナー「新型コロナウイルス感染症と東アジアの障害者」』

2021年2月27日に開催された障害学国際セミナー：オンライン特別セミナー「新型コロナウイルス感染症と東アジアの障害者」に学会は共催団体として加わった。

引き続きオンラインでの開催のため、本体の Cisco Webex のセミナーは対面での開催と同様、日本語、韓国語、中国語で開催し、同時通訳アプリの RSI X で同時通訳を流し、並行して Zoom Pro で日本の傍聴者向けに手話、文字を提供した。

「セミナー概要」

○日時

2021年2月27日（土） 14:00-16:30（東京，ソウル） / 13:00-15:30（北京，台北）

○プラットフォーム

Cisco Webex

○使用言語

日本語、韓国語、中国語

○主催・共催

主催：立命館大学生存学研究所

共催：障害学会、韓国障害学フォーラム、東湖社会発展研究所、台湾障害学会、科研費基盤
(C) 東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会

○参加者数：150名（概数）

○概要

第1パネル「新型コロナウイルス感染症と医療への平等なアクセス」

中国からは医療資源配分、台湾からはパンデミックにおける健康の権利、日本からは支援体制とアクセシビリティ、韓国からは公的支援、特に障害者の死亡率の高さについてそれぞれ報告があった。

第2パネル「新型コロナウイルス感染症と生活水準と社会保障」では、日本からは、NPO法人ゆにから NPO としての情報アクセシビリティの取り組み、韓国からはアセアンと韓国における雇用分野の研究報告、中国からは北京の障害女性組織の取り組み、台湾からは障害者への経済的影響に関する報告があった。

今回の大きな特徴としては以下の3点が挙げられる。

1. 3言語の国際会議において音声の同時通訳のみならず、手話と文字が提供された。ポストコロナにおけるオンラインの展開を考えると複数言語の同時通訳+情報保障という少なくとも日本での最先端の取り組みとなった。

2. 東南アジア（アセアン）からの初参加があった（マレーシア）。これもオンラインのメリットである。

3. 日本に関する報告を日本に関する研究者（米国の Mark Bookman：障害学会会員）が行った。

会議サイト <http://www.arsvi.com/a/20210227.htm>

(3) 障害学国際セミナーと障害学会の関係の検討の必要性

障害学会は、2020年度に2度、オンラインで東アジアの障害者と新型コロナウイルス感染症をテーマに開催された上記の障害学国際セミナー（①2020年7月18日、②2021年2月27日）を共催した。障害学国際セミナー（East Asia Disability Studies Forum）は2010年度に開始された日本、韓国、中国、台湾において持ち回りで毎年開催される東アジアにおける障害学に関する交流と対話の場である。<http://www.arsvi.com/a/kjdsf.htm>

同セミナーは、日本が立命館大学生存学研究所（立岩真也所長）、韓国が韓国障害学フォーラム、中国が東湖社会発展研究所（武漢のNPO）、台湾が台湾障害学会が構成団体となり、協定等に基づかない緩やかなネットワークに基づく。その韓国のメンバーである韓国障害学フォーラムより韓国の構成組織が韓国障害学会に変更になるという連絡が、2021年8月上旬にあった。新たに韓国障害学会に設置の障害学国際セミナー小委員会に韓国障害学フォーラムが加わるという形をとり、光州大学のジョン・ヒギョン教授（立命館大学出身）が委員長を務めるという内容である。

これにより、東アジアに存在する3つの障害学会のうち、日本の障害学会を除く、韓国障

害学会と台湾障害学会が障害学国際セミナーの構成組織となった（中国には障害学会が設立されていない）。日本の障害学会として、今後の障害学国際セミナーへの継続的な関与について検討を行う必要がある。

なお、次回の障害学国際セミナーは2022年2月26日（土）、27日（日）に京都の立命館大学朱雀キャンパスにて、障害者の地域での自立生活（障害者権利条約第19条）をテーマとして暫定的に対面で開催予定である（共同委員長、立岩・長瀬）。従来の順番に従うのであれば、その後は韓国での開催となる。付言すれば、台湾海峡の政治的・軍事的緊張の高まりに伴い、中国と台湾での開催には今後、困難も想定されている（とりわけ中国開催時の台湾からの参加）ため、相対的に日韓の役割が増大する可能性もある。

最後に、今後の学会の課題として、障害学国際セミナーへの関与を超えて、国際的な取り組みを国際委員会の設置を含め、検討を進める必要がある。

②広報担当報告

会員からの情報提供について

現在、以下の広報用メールアドレスを取得して、会員から寄せられたイベント・出版等の情報を一斉メール配信している。

イベント・出版等の告知を希望される会員は、以下の情報を広報担当までお送りください。

送り先：jds_info@googlegroups.com（障害学会広報担当）

- ・ 件名：
 - ・ 本文：
 - ・ 配信希望日：
- （受付から配信まで数日いただくことがあります）

③情報保障担当報告

オンライン形態で大会を開催する際の情報保障については、今後、適切なあり方を検討していく。

■ その他

・ 2022年度 第19回大会について

新型コロナウイルス感染症の状況が予測できないため、開催形態はいまのところ未定である。状況の変化を踏まえながら検討し、決まり次第、HP・メール等で会員に告知する。

・ 9期理事会の任期満了

2021 年度総会（9 月 25 日）にて 9 期理事は退任。